



ほとけの子

HOTOKE no KO SERIES

No.2

花まつり

はな



花まつりQ&A

Q なぜ花まつりというのですか？

A お釈迦さまの誕生と花にはゆかりがあるからです。生まれた場所がルンビニーの花園だったと言われていたり、王妃が花に手を伸ばそうとした時に右脇から誕生したと伝えられています。このことから、誕生仏を安置する御堂には、花をかざり飾ってお祝いをします。

Q なぜ誕生仏は上と下に指をさしているの？

A お釈迦さまは、生まれてすぐに立ち上がり、七歩歩いて右手で天をさし、左手で地をさして、「天上天下唯我独尊(天にも地にもただひとりわたしとして尊い)」と、さげられました。「この世の中に、人間として生まれた一人ひとは、ほかの誰にもかえられない、尊い存在である」ということを、お釈迦さまは教えてくださっています。

Q なぜ甘茶をかけるのですか？

A お釈迦さまの誕生をよろこび祝うようにして、天地は激しく揺れ、世界は輝き、空からは甘く清らかな雨が降ったと伝えられていることから、甘茶をかけます。



H A N A M A T S U R I

発行元 真宗大谷派(東本願寺)青少幼年センター

いのちの教育は、お寺から

TEL. 075-354-3440 FAX. 075-371-6171 Email. oyc@higashihonganji.or.jp

お釈迦さま誕生の物語

今から二五〇〇年ほど前のこと、インドの北の方に小さな国がありました。石の壁で囲まれたその国には、スドーダナ王とお妃さまのマーヤー夫人がいらつしやいました。

ある夜のこと、マーヤー夫人は白い象が体の中に入る夢を見て、おなかに新しい命がやって来たことに気づきました。王さまもお妃さまも、そしてその知らせを聞いた人々もとてもよろこびました。時が満ち、美しい花が咲く頃に王子さまが誕生し、ゴータマ・シッダールタと名づけられました。

王子さまのお顔を見た仙人は「いつの日か世界を一つにする王さまになられるでしょう。しかし出家をすれば世界中の人々を救うブツダとなるでしょう」と言われました。それから幾年もの月日がすぎて、王子さまは立派な青年になり

ました。お城で豊かな暮らしをしていましたが、門の外で人が生きる上で出会うさまざまな苦しみ、老いること、病にかかると、いつか死んでいくというのを見て、苦しみから解放される道を求め出家されました。

そして長い修行の後、覺りを開かれブツダ(目覚めた人)と成られました。ブツダは、地球に生きているすべての人々、動物も草や木や花も、自然にある一つ一つのいのちは尊い存在で、互いにつながり合って生きていると説かれました。

広いのちの世界に出会った人々は、人間として生まれ、ブツダの教えを聞くことができたことを喜び、どんなに苦しいことがあっても自分を大切にしようになりました。ブツダのことを日本では「お釈迦さま」と親しくお呼びし、この世に誕生されたことをお祝いして毎年「花まつり」をお勤めします。



＜慶讃テーマ＞

宗親 觀賢聖人
御誕生
立教開宗
588
800

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

真宗大谷派 (東本願寺)